

「6・6」—— 初代会長 牧口常三郎 先生 誕生日

導入部

「6月6日」は創価学会 初代会長・牧口常三郎先生の誕生日です。牧口先生は、軍国主義に反対し、民衆を不幸にする悪と戦い続けました。牧口先生の不屈の闘争を学んでいきましょう。

1枚目／苦学に徹し小学校の教師に (8枚目の絵の裏に貼る)

牧口先生は1871年(明治4年)6月6日、現在の新潟県 柏崎市 荒浜に生まれました。14歳のころ北海道に渡り、働きながら勉強を続けました。苦学の末、北海道尋常師範学校(現在の北海道教育大学)に入学。卒業後は小学校の教師となりました。

2枚目／『人生地理学』の発刊 (1枚目の絵の裏に貼る)

牧口先生は、地理学の研究にも取り組んでいました。1901年(明治34年)30歳の時、日頃書きためていた地理学の原稿を携えて上京し、2年後、『人生地理学』を発刊します。

牧口先生は『人生地理学』で、人間の生活と地理の関係から世界を考察し、「世界市民」たることを主張しました。『人生地理学』は、初版本が10日もたたずに売り切れ、新聞や雑誌でも大きく紹介されるベストセラーとなりました。

3枚目／子どもの幸福を第一とした教育を実践 (2枚目の絵の裏に貼る)

牧口先生は、小学校の校長を歴任し、「子どもの幸福のための教育」を目指しました。

牧口先生は、弁当を持ってこられない子どものために、自分の給料をさいて豆もちなどを用意し、教室とは別の部屋に置いておくなど、細やかに心を尽くしました。

子どもたちに限りない慈愛を注ぐ一方で、「わが子を特別扱いして欲しい」という地元の有力者の要望を拒否したために、左遷されたこともありました。牧口先生は、不正や権力の横暴を決して許さなかったのです。

4枚目／**仏法、そして愛弟子との運命的な出会い**

(3枚目の絵の裏に貼る)

1920年(大正9年)、一人の青年が牧口先生のもとを訪ねます。「どんな劣等生でも優等生にしてみせます」との熱意に動かされた牧口先生は、この青年を臨時代用教員として採用。これが牧口先生と戸田先生との出会いでした。以後、戸田先生は牧口先生を人生の師と仰ぎ、苦難を共にします。

昭和3年(1928年)、57歳の牧口先生は、日蓮大聖人の仏法に出会い、戸田先生とともに信仰の道を歩みはじめました。

5枚目／**民衆救済の先頭に**

(4枚目の絵の裏に貼る)

決意を新たにされた牧口先生は、それまで書きためてきた独自の教育理論を、戸田先生の協力を得て『創価教育学体系』としてまとめ、1930年(昭和5年)11月18日に発刊しました。この日を、創価学会の創立記念日としています。

はじめは教育者の集まりであった学会は、やがて、日蓮仏法を實踐する庶民の団体へと発展し、地方折伏や座談会などが、活発に行われるようになりました。牧口先生は高齢にもかかわらず意気軒昂にその先頭に立ち、北海道から鹿児島まで足を運び、一対一の励ましの対話を實踐しました。

6枚目／**権力に迎合する宗門をいさめる**

(5枚目の絵の裏に貼る)

しかしこの頃、戦争への道を突き進む軍部政府は、思想・宗教の統制を強めていきます。

軍部政府が神札をまつることを強制すると、臆病な宗門はそれを受け入れ「学会も神札を受けるように」と申し渡してきました。牧口先生は、権力に迎合する宗門をいさめ、「神札は絶対に受けません」と宗門の要求を断固、拒否します。「一宗が滅びることではない、一国が滅びることを、嘆くのである」と。

7枚目／獄中での闘争

(6枚目の絵の裏に貼る)

1943年(昭和18年)7月6日、伊豆の下田に地方折伏に訪れていた牧口先生は、軍部政府の迫害を恐れず信念を貫き、治安維持法違反と不敬罪の容疑で逮捕されました。

牧口先生は食事も満足に与えられない獄中であって、厳しい尋問にも屈せず、大聖人の仏法の正義を厳然と語りました。

逮捕から1年4か月後の1944年(昭和19年)11月18日、学会創立の日と同じ日に、牧口先生は極度の栄養失調と老衰のため、巣鴨の東京拘置所で殉教されました。民衆の幸福のために捧げた、73年の尊いご生涯でした。

8枚目／師弟の勝利！ 世界に広がる創価教育学

(7枚目の絵の裏に貼る)

牧口先生の思想と行動は、弟子である戸田先生、そして第三代会長の池田先生によって世界に宣揚されてきました。『創価教育学体系』は英語、フランス語、中国語など多くの言語(14言語)に翻訳され、牧口先生の功績を称え「牧口常三郎」の名前を冠した公園や通りが世界の各地に誕生。また、創価教育学を実践する「牧口教育プロジェクト」がブラジル全土の学校に広がっています。

牧口先生の不屈の闘争は、二代、三代会長の師弟の戦いによって、ますます光を放っています。

牧口先生の勇敢なる師子の闘争に続き、私たちも善の連帯を広げる勇気の対話に挑戦していきましょう。

決意など